



京都の民主運動史を語る会機関誌 題字 住谷悦治

会代表 天 野 和 夫
同副代表 奥 田 修 三

会費・誌代とも年3,000円

〔郵便振替払込〕

口座番号 01060-7-15762

加入者名 燎 原 社

新しい年の展望

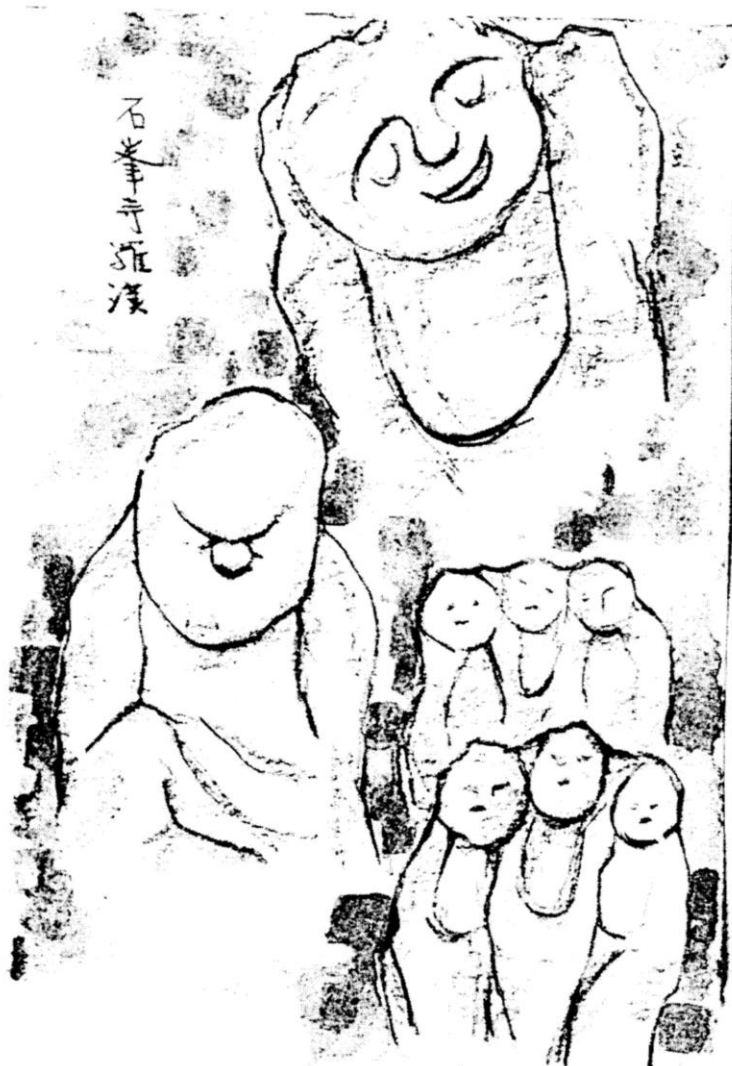
「京都・文化懇話会」の記録

『船 乗 り』(四)―(完)―

梅 田 勝

中 山 研 一

田 中 豊 蔵



永 原 誠

新しい年の展望

梅田 勝

永い人類史のなかで、新しい年といっても僅かこれから一年の展望を語るといのは、やはり現代が激動期だからであらうか。戦後も半世紀も経てふりかえると時代の変化は誰の目にも明らかである。侵略的な軍国主義日本は敗北して、新しい国民主権の平和憲法が制定された。明らかに戦前の時代とは画されている。

しかし、間もなく反動攻勢があらわれ、われわれはその困難を乗り越えなければならなかった。政界の再編成がおこなわれたいわゆる五五年体制ができたころから、世界では共産党・労働者党の国際会議も盛んとなり、いわゆる「社会主義の世界体制」なるものが大いに議論されたものである。そして日本では、一九六〇年の安保闘争が歴史的ともいえるべき大規模な大衆運動となった。それは日本共産党独自の強大な党建設と結びつ

いて、京都では谷口善太郎の議席奪還へ結実し、さらに、七〇年代初頭の京都府知事選挙では、天下分け目の決戦とまでいわれ、蜷川六選は反動連合を打ち破り大勝利を収めている。こういうときは、展望は比較的容易に述べられていたように思われる。

ところが、われわれが批判してきた旧ソ連・東欧が崩壊すると世間の社会主義への見方は厳しく変化した。社会党などは解体状態に陥ったのである。社会党は早くから地方自治体では自民党や反共野党と連合して革新陣営を裏切っていたので、自民党政権に与しても別段驚くには当たらない。それでもソ連崩壊のころは「展望が見えにくくなった」という声を聞いたものである。だが、これらも、しばらく見ていると事態は明確になってくるのである。

昨年一〇月の総選挙は、政治に

たいする国民の考えが極めてはっきりと表明された点で重要であった。公約違反の消費税の増税は勿論のことであるが、国民の政治にたいする批判は極めて鋭い。バブル経済の破綻、住専問題、沖縄の基地問題、エイズ問題、どれひとつをとってみても長年のアメリカと大企業べったりの自民党政権と、これに与した反共諸政党の責任が問われるものばかりであった。とくに社会党の責任は大きい。村山内閣はかつての片山内閣の誤りと同じもので、連立内閣といっても本質は自民党の補完政権にすぎなかった。

今回の選挙では、唯一の革新野党である日本共産党に支持が大規模に寄せられる絶好のチャンスであった。結果がそれを証明している。勿論、万事もうまくいったわけではない。旧京都一区の過去最高票をとっておれば、三区に加えて、一・二区も議席がとれ、全国的な躍進にもっと寄与できたはずであるし、また、個々の行政区をよく見ると、まだまだかれらの政治基盤の固さを感じるし、有権者の思想の複雑さを読み取ることができ。投票率が史上最低というのも、国民の鋭い批判のあらわれで、同時にそれは、国民の意識水準を示したものとみななければならない。

こうして見てくると、これからの展望は、院内では政党の無責任な離合集散がまだまだ続くであろうし、日米関係が安保でくぐられつつあるかぎり、基地問題も景気回復もなにひとつ解決できず、政権と国民との矛盾は一層深まるばかりで、院内の党議員団の奮闘と院外の大衆闘争が決定的なかぎをにぎるようになると思われる。第二次橋本内閣は「行政改革」を看板にしているが、これは社会保障・福祉の切り捨てであり、国民の怒りを増すだけで、深刻な財政危機も解決できず、政権の運命も先が見えている。

したがって、新しい年の展望は、来たるべき大破綻にそなえて、足腰を鍛え、政権担当能力に自信をつける年にするとしたいものである。足立区や狛江市での新しい経験は、京都市長選挙の教訓が土台となっているとはいえ、かつてわれわれが経験した革新自治体をはるかに乗り越えたものになってきているだけに、注意深く学んでいくことが重要になるのではないか。新しい年をそういう展望の明るい年にしたいものである。

以上
(うめだ・まさる 元衆議院議員)

「京都・文化懇話会」の記録

中山 研一

天野和夫先生から、かつて活動していた「京都・文化懇話会」について、何か資料が残っているようにうであれば、京都の民主運動の記録として残しておきたいので、まとめてもらえないかという依頼がありました。そして、先生の手元にあるノートを一冊同封してくださいました。

私は、当時京大にいましたが、宮内先生をお助けしてこの文化懇話会の事務局のお世話をしたことがあり、古い記録を探しましたところ、幸い宮内先生が残された資料類の中からいくつかの書類やメモなどが出てきました。そこで、これらの不完全な資料を判読し、正確な記憶を辿りながら、当時のこの会の模様をいくらか復元することによって責をふさぎたいと思います。

1 京都・文化懇話会の設立の背景

この会が、いつ頃からどのような契機から作られるようになったかは、必ずしも明らかではありません。しかし、記録として一番古いのは、一九五八年（昭和三四）一月二六日に、「思想・信教・言論の自由を守る」というスローガンの下に京都の文化関係者のパレードが行われ、学界・映画演劇界・音楽・美術などの諸団体から二百余名が参加したというもので、参加者は三〇〇名に及んだとされているのですが、これは当時問題になっていた「警職法改正法案」に対する反対デモに当たります。そしてこの機会に、文化関係者の恒常的な会を設けることが話題になったといわれ、その相談のため、の会合が一九五八年二月二二日に京大楽友会館で開かれていま

す。この会合の呼びかけは「京都文化関係者連絡会議（仮称）」の名でなされ、発起人には、市川白弦（宗教人懇話会）、依田義賢（シナリオ作家協会）、前芝確三（憲法擁護教授懇話会）、毛利菊枝（くるみ座）の諸氏の名があがっていました。この会合には約二〇名が出席し、設立準備委員会を設けること、団体参加を原則とし個人の参加も認めること、世話人を設けることなど、会の基本的な枠組と原則について合意が形成されました。

これを受けて、何回かの準備委員会が開かれ、会の名称、目的、事業、組織、会費などの点が相談され、一九五九年三月に設立総会を開くことを目標に、各種の文化団体に加入の呼びかけが積極的になされたのです。

この段階では、まだ具体的な形で表面化するには至っていませんでしたが、一九六〇年が安保条約改定期にあたることはすでに周知の事実でしたから、その反対運動のために文化関係者の組織的な意思表示と行動の体制を作る必要があることが、呼びかけに応えた団体や個人にとって共通の認識であったと思われます。

なお、最初の規約案では、会の名称は「文化関係者懇話会」とされていましたが、最終的には「京都・文化懇話会」とすることになりました。

京都・文化懇話会」とすることになりました。

2 京都・文化懇話会の発足

京都・文化懇話会は、一九五九年三月二九日に、京大楽友会館ホールで発会式を行い、五五名の参加者がありました。規約案が承認されましたが、それは次のようなものです。

京都・文化懇話会規約

第一条（名称）

本会は、京都・文化懇話会という。

第二条（目的）

本会は、京都の文化活動に関係する団体および個人の親睦と連絡をはかり、もって自由な文化活動を促進することを目的とする。

第三条（事業）

本会は、前条の目的を達成するため、例会（年四回）ならびに諸種の催しものを行う。

第四条（会員）

本会は、文化活動に関係する団体および個人をもって会員とする。

本会に世話人若干名をおき、会の運営に当たる。

第五条(会費)

本会の通常経費は、会費によってまかなう。

会費は、年額、団体二〇〇円、個人一〇〇円とする。

設立時の参加団体は一四と記録されていますが、加盟団体の名簿によりますと、次の二三団体の加盟を確認することができます。

京都地区憲法擁護教授懇談会、民主主義法律家協会京都支部、宗教人懇談会、詩誌「骨」、京都日曜クラブ、シナリオ作家協会関西支部、総評京都府評議会、京都民主主義医療機関連合会、新京都文学会、日本文学協会京都支部、三一書房、京都府保険協会、京都労働者演劇協会、劇団ドラマ劇場、日朝協会京都府連合会、法律文化社、劇団京芸、京都新劇団協議会。

一方、個人会員は名簿上二二名を確認することができますが、会の世話人としては、次の各氏の名があがっていました。前芝確三、河野健二、安永武人、市川白弦、稲田素臣、依田義賢、桜井武雄、中村三之助、宮内裕、中山研一、池田誠、井ヶ田良治、小倉襄二、津守常弘、田畑弘。

なお、設立総会の当日のプログラムの内容ははっきりと確定でき

ませんが、準備会における予定としては、記念講演(安保条約について)、歌や詩や寸劇や漫談、それに映画(警職法のフィルム)などが計画されていたというメモがあります。当日の会費は二〇〇円となっていました。

3 京都・文化懇話会の活動

京都・文化懇話会は、設立以来、規約にしたがって、何回かの例会を開いたほか、他の団体とも協力して、社会問題についての集会やデモなどにも積極的に参加しています。その記録は、定期的に並べますと、以下の通りです。

① 一九五九年七月一八日

第一回例会

「映画人にものを聞く会」
アサヒビアホール

三〇名参加

講師は、大映プロデューサーの辻氏、東映俳優の吉田義夫氏、日本映画俳優協会事務局の内藤氏、公衆会館の山村信雄氏。

② 一九五九年十一月三日

第二回例会

「出版人にものを聞く会」
アサヒビアホール

二六名参加

講師は、三一書房の田畑弘

氏。

③ 一九五九年一月二七日

安保条約反対の文化人による「静かなデモ」 教育会館
午後三時集合

午後四時からデモ 教育会館
↓河原町通り↓四条通り
↓円山公園

約三〇〇名参加

④ 一九六〇年一月一五日

第三回例会

「保険医にものを聞く会」
アサヒビアホール

一五名参加

講師は、保険医協会の長島三郎、日野要、大橋和孝、平松三郎、宮沢真寿男、和田孝雄、高橋松蔵の各氏

⑤ 一九六〇年二月二〇日

関西安保問題懇談会 大手前会館 市川白弦氏ほか七名参加

⑥ 一九六〇年五月九日

第四回例会

「弁護士にものを聞く会」
アサヒビアホール

一五名参加

講師は、熊谷康次郎、黒瀬正三郎、能勢克男の各氏。

⑦ 一九六〇年五月一八日

安保反対街頭署名運動
三条京阪・京極蛸薬師・四条大宮 午後三時一七時

参加者は、末川博、大西良慶両氏ほか、文化人四〇名、大学院生一〇〇名、署名数約二八〇〇、カンパ一八〇〇円。

一九六〇年六月二日
岸政府の暴挙に反対する抗議集会 京大楽友会館 午後四時より約一三〇名参加

⑧ 一九六〇年六月二日

京都・文化懇話会、宗教人懇談会、憲法擁護教授懇談会の共催。

⑨ 一九六〇年六月四日

街頭演説 トラック三台
京都市内各所 午後三時一八時半 事務局は労働学校
街頭演説の参加者以外は、大学関係のデモに参加、教育会館集合

⑩ 一九六〇年六月一五日

国会即時解散を求める京都地区大学教授団抗議大会に文懇会員も参加

立命大加茂川原グラウンドに集合、大会後デモ 河原町↓四条河原町↓南座前広場
大学関係者を含め、参加者は約五〇〇名。

⑪ 一九六〇年六月二二日

大学連合と共催のデモ
午後三時 教育会館集合
集会後 デモ
河原町丸太町↓四条河原町

⑫
↓円山↓四条河原町↓市役所
参加者約六〇〇名。
一九六〇年七月一日
第五回例会

「宗教人にものを聞く会」
アサヒビアホール

二三名参加
講師は、森竜吉、篠田一人、
上田正昭の各氏

⑬
テーマは、伊勢神宮、靖国
神社の国家保護に関する話
一九六〇年一〇月三日
第六回例会

「新劇人にものを聞く会」
志津屋 一名参加

⑭
講師は、劇団京芸の仲武司
氏。蔵原惟人氏特別参加。
一九六一年六月五日
政暴法粉碎決起集会 立命
大存心館一四号室 午後四
時半

四大学教職組連合、京都地
区教授団、憲懇、文懇の四
団体共催

末川博総長の挨拶、宮内裕
教授の講演 集会後、円山
公園までデモ 約五〇〇名

以上が、この会の活動に関する
記録ですが、これを一見しただけ
でも、京都・文化懇話会が六回に
わたる通常の例会をこなしながら、
同時に当時の安保反対運動に対す
る京都の文化関係者の意思表示と

行動を積極的に推進する役割を果
たしていたことを知ることができ
ます。

その活動は、一九五九年と一九
六〇年に集中していますが、一九
六一年の政暴法反対運動にも参加
し、その成果が「政暴法」(末川博・
田畑忍編、三一新書、一九六一年)
として結実していた事も、指摘し
ておく必要があると思います。

一九六一年以後、活動の記録を
見る事が出来ないのは残念ですが、
とくに各界の「ものを聞く会」と
いった魅力的な企画がもっと続い
ていけばと惜しまれます。
(なかやま・けんいち
京都大学名誉教授)

おわび

第一〇七号掲載の戎谷春松氏
「山宣の柩をかついで 人民解放の
道ひとすじに」(三)には重大な編
集ミスがありました。戎谷氏の指
摘にしたがい、四ページ冒頭の「一
行目から二段三行目までを六ペー
ジ一段の一九行以下に移し、(五)
につづくように訂正します。
編集者交代等の事情があり、二
度にわたる大ミスをおかけし、ま
ったく申し訳ありません。御迷惑
をかけた戎谷氏ならびに読者の皆
さんに深くおわび申し上げます。

『船 乗り』(四) (完)

田中豊蔵

(九) 船から上る

私は、京都市下京区東九条山王
町の生家に父母弟妹に近況をたず
ねる手紙を出しました。

三日たった晝前に突然父が来ま
した。私は大いにビックリしまし
た。父が言うには、

「船に乗っていてもあかん、家
に帰れ、兵隊に行かねばならな
い、いつまでも極道をしていたら
あかん。船の出港する前にひまを
もらえ」

ときびしく申しました。私も、
「軍隊に行かねばならないので
必ず帰って来る」

と約束しました。父は、「祖父も
祖母もどれだけ心配されているか
わからん、常に膳膳を供えてお前
の無事を祈っておられるのだ」と
懇々と家に帰るように説得されま
した。私も初めて目をさまして家
に帰る気になりました。

このことを水夫長に話をします
と、

「兵隊に行くのであれば下船し
てもよろしい、明日海警局へ手
続をしてやる、軍隊にいけな
かったら、神戸のメリケン波戸場
の大阪商船KKの人事に話をし
ておく」

から、又きたらよい」

と言ってくれました。私は船長を
はじめ一等オフィサー、水夫長、
カーペンター、コダーマスターの
皆んなにお礼をいって午後三時
頃、港のブイにつながれていたジ
ャバ丸から下船してハシケに乗り
ました。船内の三十人程がタラッ
プまで見送りにきてくれました。
心あたったかい仲間の心情を見て、
私はうれしいやらかなしいやら胸
が一杯になりました。私は、小舟
のサンパンにのりましたが、船頭
さんは艀をこいでメリケン波戸場
の棧橋に着きました。

私はもうこれで船員生活が終わ
るのかと思うさびしい気持ちにな
りましたが、当時の日本の国家権
力が軍隊というものをもち、男二
十一歳になれば必ず徴兵検査をう

け、兵役に服さなければならぬという法律にしばられていたのです。若しもこれに従わないものがあれば反逆罪とされます。しかし私は京都に帰っても、海員組合で鍛えられた労働運動というものを忘れずに、どこの土地へいってもやってやろうという気持ちもありました。

午後四時すぎ、三の宮駅から京都行きのキップを買い荷物は手荷物で送り、なつかしの京都へ午後五時頃につきました。家では、なつかしい父母弟妹、祖父・祖母があたたかく涙を流して出迎えてくれました。

家で父母弟妹等、男四人女三人の大家族で夕食をいたしました。大石橋の辻川商店で買った肉は、母に聞くと切り込み百匁、十錢。一番安物です。五十匁の鶏肉百匁八錢あまり三百匁、ねぎ五束で一束二錢でした。母は牛馬は食べません。家で馬を飼って運送業をしているものですから牛馬の肉は食べないのです。

夕食は大変たのしくいただきました。夜は畳の上で寝みます。船はベッドです。せまい乍らもたのしい我が家。船では波風の音がしますが、久し振りに寝る京都のわが家は静かなものであり、父母のありがたさも身にしました。

(十) 京都に帰る

私の家では家内一同一生懸命に働いております。父母は朝五時に起きて牛馬にえさをやります。豆腐のしぼりかすのおからにぬかを入れ込んで、中型のたらいに汁をこしらえて飲みます。ねぎのわるい所や、薬を一寸位押し切りで切って煮るのです。中たらいに八分目位を入れて牛に、馬は麦をたいた汁をのまして春は草や薬を細かく切って食べさせます。馬は夜にも食べさせます。本当によく食べるものです。父母の日々の苦勞の程がよくわかります。

私の家には牛馬が五頭もおります。父も牛馬車を引いて梅小路駅にいき荷物をさがして運搬します。毎日父が行く川本運送店には使用人が二人、兄が十八歳、弟が十七歳、これも馬を使っています。父は、昨日家に帰って来た長男の私を連れ、運搬業の見習いをおぼえさせます。

私は初めて京都の梅小路駅の運送店で働きました。二十日程、父と共に働きました。それから私は一人で馬や牛を使えるようになり京都市内の鉄や金物店、鉄工所等、梅小路駅についた荷物を車に積込んで各所に運送します。そ

れから一ヶ月二ヶ月、そして一年を過ぎました。ようやく一人前になった私は友達も出来、つき合いも広がっていききました。

梅小路駅では私を「ハクライの馬車引き」とからかいます。たしかに船舶に乗っていた船乗りでした。だから舶来の馬車引きです。一人で荷物を積込んで鉄屋や金物屋の荷物を運搬します。道路は駅前にはコンクリートになっており七条大宮通りの十字路はアスファルトです。真夏になりますと高熱で路面がやわらかくなり荷車がにえ込みます。電車道は敷石があるので荷車がかかるくまわれます。それで電車がこない時には馬車を電車道に走らせませす。ポリスが見つけると注意をします。道路交通の違反です。罰金を取られるのです。

ある日の正午頃、東山五条下ル西川金物店の荷物を満載して七条烏丸の十字路に差しかかりました。七条署の交通ポリス竹内交通課長が真中に立って整理をやっております。私は見られたら困りますので、直ちに左に道をかえて一寸一歩くしました。

竹内ポリスマンは有名なうるさ型のポリスです。その時外人の船員四人が京都駅で下車して京都見物に来ました。行き先をきいているのですが、学生さんやサラリー

マンの英語のわかる人にあたりません。そこで交通整理のポリスマンに聞きにいきました。竹内ポリスは言葉がわからず手をふって「わからない」という合図をしているのです。私は、馬車を電柱につないで歩いて走って行き、その外人さんは船員さんと見たので、私の方から話かけました。

「ハーロー、ユー、イギリスシップ、オフィサー、セーラーマン!?」すると外人は

「キャン、ユー、スピーク、イングシュ、ベリベリナイス」といって私のそばによって来ました。私は

「アイ、OSKシップ、ジャバ丸、インド・ウィー」と申しますと、よろこんで、自分の行き先を言ってくれたのです

田山公園 祇園、ゲイシャガール、知恩院、大極殿の見学、そして島原の大夫を見たいというのです。私はタクシーを止めて、この四人に祇園のゲイシャガールを見せてやって下さい、と運転手さんにしたのみました。そのあとは運転手さんで決めて下さい。日本円で、一円で、祇園のゲイシャ町までいけます、といいてやりました。外人は大変よろこんで私にタバコを一ヶ呉れました。上海で賣り出し

ているキャッスルでした。私は、「サンキュー」

相手は「グッバイ」

といってタクシーに乗り、手をふりました。

竹内ポリスマンは

「おい馬車屋、よくやるね」といっておりました。私は、言ってやりました。

「時代の流れだ。英語を知って居ないと不自由だ、京都の玄関口だ、署員の皆さんに英語を習わして下さい。グッバイ」

(十二) 再び労働運動

光陰は矢の如し、毎日私は仕事に出ております。「ブルジョワ新聞の朝日・毎日・読売でも休むときは休むが、お前は雨の日も風の日も梅小路駅に働きに出てくるな……」と運送店はほめてくれました。

私はいいました。

「雨の日、雪の日は仕事があります。仲仕・馬車屋の人には休みはありません。身体は元気で」と。

私は、夕方仕事を終えて家に帰ると七時頃になります。近所の日比野一夫君が三人の友人をつれて私の家に来て来ました。

「田中君、君に紹介したい人をつれて来た。染物労働組合の東九

条方面を受けもっている活動家で組合支部委員長の安田郁君です」

「もう一人は、宇賀神社の横の角田文太郎君です」

と言ってくれました。私は頭をさげてあいさつをしました。そして

「明日の夜、表のうどん屋の山本さんの家で出あいたい」というので私は行ってみました。すると日比野一夫君がよく来てくれたと礼をいい。安田君と角田君がいまして。そしてうどんを食べながら、

「田中君、合同労働組合に加入してくれ」といいます。それで私は加入しました。

私は、仕事をしていますが、組合があったら知らしてくれといって握手をしました。そしてビラはりやビラまきがあったらやるからどうぞ遠慮なく言ってくれる様にといいました。

私は夜、仕事が終わって家に帰ると松ノ木町の染物労働組合の事務所にいき、友達も沢山できました。

私は二十一歳の徴兵検査のあと、野砲第廿二連隊にいきました。そして一人前の軍隊をつとめて来ましたが、除隊してから、ストや労働組合活動をやりまして。両親には「仕事は休まずにやるから組合活動は認めてくれ」というと、これを認めてくれました。私は夜七時になると労働組合の

事務所に行きます。青年同盟の委員長早川忠孝君が

「田中君、おれの事務所に来てくれ話をしよう」といいます。

そして、水平社同人の東七条支部役員の竹内君というのがいて、「明日夜、七条大橋

西加茂川下ルの稲荷神社の横の露路を西へいくと早川の家はすぐにわかりますから」といいました。

東七条の貧民窟でした。事務所もきたない家でした。五、六人の人がまわっていて、

「田中君青年同盟に加入してくれ」といいます。他の青年も熱心に加盟をすすめてくれました。私は、

「心よく参加します」といいますと、皆が拍手して喜びました。そして友人が次々と出て

来ました。私は、読み書きは出来ませんが、身体でやる事なら、ビラまきでも伝単貼りでも何でもするといいました。

それから私は、東九条山王町の高瀬川から東七条の事務所まで自転車で行き、ビラや伝単貼りをよくやりました。その様な中で争議団のビラまきをやって検挙されたこともありまして。

大正十四年末頃(一九二五)から十五年にかけて大銀行が倒産する事件がおきました。京都市では、

十五銀行・近江銀行・積善銀行の中

小銀行が倒れました。東九条方面の染工場も倒産、労働者は失業しました。一方中国上海では日本の

染色業を取入れて、日本の親方が染物労働者をつれて上海へ行く人が

沢山ありました。染物の元役員をしていた高原夏枝君等は二十人程の労働者をつれて玄界灘を渡り

上海に行きました。京都の染物工場は、中京・堀川三条・岩上通・猪熊通・大宮・西院・西ノ京・梅津・山の

内・桂方面に沢山の染工場がありました。その中でも中京の方は比較的

仕事はありましたが、東九条の方は火の消えた様なものです。当時の染物労働者といっても徒弟制度の様なものがあり弟子を持っ

ている人もありました。この弟子をつれて、仕事のある所を渡りあるのです。日本国内で仕事がない時には、中国の方まで遠征に出たんです。

それから大正の年代も昭和にかわり、あの一九一九年の世界大恐慌になっていくのです。労働者の生活は塗炭の苦しみ、私達の組合活動は益々重要なものとなりました。

私はそれ以来、一人の労働者として生涯を労働運動にかかわる人間として歩みつづけることになるのです。

— 以上 —
(たなか・とよぞう)

1997年
元旦
明けまして
おめでとうございます

京都市職員労働組合 中央執行委員長 河内 一郎 京都市中京区河原町御池 ☎〇七五―三三二―三八八三	京都府職員労働組合 中央執行委員長 平井 勝 京都市上京区下立売通新町西入ル ☎〇七五―四五一―七八六八	京都第一法律事務所 京都市中京区柳馬場夷川上ル ☎(〇七五)二二一―四四一一	京都中央法律事務所 辯護士 苅 立明 京都市中京区二条通寺町東入ル 大興ビル二階 ☎(〇七五)二二三―〇四六一
左京区丸太町通新町上ル (京都府教育会館内) 京都市教職員組合協議会 京都市教職員組合(☎ 七七一―九一七二) 京都市立高校教職員組合(☎ 七七一―一三三八) 京都府立高校教職員組合(☎ 七五一―一六四五)	左京区丸太町新道上ル ☎七五二―〇〇一一 京都教職員組合 委員長 増田 光夫	京都自治体労働組合総連合 委員長 椿原 孝 京都市中京区壬生仙念町二〇―二 労働者総合会館内 ☎〇七五―一八〇―一八八六	日本共産党京都府委員会 京都市中京区丸太町新町角 電話 二二一―五三七一番(代) 委員長 市田 忠義 書記長 中井 作太郎 副委員長 西山 秀尚 副委員長 水谷 定男 副委員長 若宮 修

働くひとびとの立場にたつ医療機関のネットワーク

京都民主医療機関連合会

〒615 京都市右京区西院久田町9 全京都建設会館5F

TEL 075-314-5011

FAX 075-314-5017

安井病院	北病院	京都民医連中央病院	吉祥院病院
川端診療所	待鳳診療所	右京病院	久世診療所
東山診療所	待鳳歯科診療所	盛林診療所	九条診療所
田中診療所	かも川診療所	春日診療所	猪熊診療所
大宅診療所	上賀茂診療所	朱雀診療所	西七条診療所
京都民医連洛北診療所	葵会訪問看護ステーション	コスモ薬局	あゆみ薬局
すこやか薬局	訪問看護ステーションかみがも	訪問看護ステーションさわやか	吉祥院訪問看護ステーション
訪問看護ステーションたんぽぽ		訪問看護ステーションもみじ	
訪問看護ステーションどんぐり	上京病院		京都市城南診療所
	仁和診療所	綾部協立病院	医誠会診療所
京都民医連病理センター	柏野診療所	まいづる協立診療所	あさくら診療所
近畿高等看護専門学校	花ぐるま薬局	訪問看護ステーションげんき	
京都医療事業協同組合	訪問看護ステーションつくし		膳所診療所
(財)京都労災事業団	訪問看護ステーションわかば		坂本民主診療所
			こびらい生協診療所

京都の民主運動史を語る会

常任世話人

〒605 京都市東山区南日吉町三九
奥村和郎方燎原社
☎(〇七五) 五六一―七四八五

天野和夫 岩井忠雄 奥田修三 加藤英範 井手幸喜 奥村和郎

〒601

橘

京都市南区西九条大国町一五

☎〇七五―六九一―二九〇四
睦子

〒624

瀬野

舞鶴市字七日市二二九

☎〇七七三―七五―〇四七三
尚憲

〒611

佐古

宇治市木幡西中四七―一〇

☎〇七七四―三二―五二九六
好一

会 員 短 信

田中豊蔵氏(93歳)から奥村へ
拜啓

秋冷の候に相成りました。毎度御厚情に相成りお礼申します。先生「燎原」御通信御送り下されお礼申します。

小生本年三月より風邪を引き、三七、八度の高熱で、一人ではどうする事も出来ず、老妻入院致して居り、三男夫婦のお世話に相成り、入退院をくりかえして今日に至りました。おかげ様で元気になり、喜び居ります。室にとじこもり居り、リハビリで運動をはげみ居ります。腰足手耳目が大不自由です。目は虫メガネで見て居ります。

若い頃から労働にはげみ、大工場の機械据付、組立にはげみ、身体をいためて居ります。今日身体の不自由はいたしかたありません。大阪の大工場、京都の村田機械KK・日本電池KKの工場で働き居りました。熟練労働者です。どこの工場でも使って下さいました。

大正十二年、京都の野砲兵連隊入隊。軍隊でも反戦運動で憲兵隊に取りしらべられ、苦勞いたしました。三・一五事件で特高課で拷

問をかけられ七条署の特高課小寺卯一課長、署員に手いたい取りしらべてこまりました。京都の工場では使ってくれませんか。京都府特高課、七条署員の妨害です。「奴

は共産黨員だ。使うな」と、しつこく妨害。使うと申して首きりになり、やむをえず大阪の工場、兵庫県尼崎の大工場で働きました。朝五時五分発の電車で大阪に行き、夜は九時まで残業します。仕事はよくするからどこへ行っても使ってくれます。それでも尾行され、見つけられます。首きりです。くりかえしくりかえしの闘いです。毎日働かなければ生活は出来ません。苦しい中、召集されました。どうして生活が出来ましようか。

待ちにまった終戦を迎えることが出来ました。仕事は工場で働きが出来ます。永年の労働がむくいられました。大工場の工場のひびき、ベルトのうなり、エアーハンマーのどつくひびき、火造の角床のトチンカトチンカの音、プロレタリアの老兵・我らの行く道、近からず、たゆまず進む赤旗の先頭に立つ、まぶたにうかぶ苦しい時代、プロレタリア勝利までがんばろう。先生どうぞよろしく御支持をお願い申し上げます。

編集部ごあいさつ

○ さわやかな新年！ この気分を日本と京都に充満させ、一年間もちつづけたいものです。昨年来の国民の新しい政治的自覚の発展に期待しましょう。

○ 昨年はその国民の自覚に立ちあがる事件が続きました。今や官僚機構までが底の知れない腐敗におかされていたことが、明らかです。大蔵省の武富士疑惑・通産省の泉井石油利権問題は、それらの省の管轄からもありそうです。が、人の命や福祉をあずかる厚生省までも薬害エイズ事件に引きつづき、特養老人ホーム建設の収賄容疑で事務次官が逮捕されるという始末です。しかも政界にも官界にも、こうした事態を防ぐための抜本的対策の用意が見えません。

○ こうした政治家や官僚たちの手で日米安保の再定義がすすめられ、条約の適用範囲がペルシャ湾や太平洋全域にまで広げられつつあります。自衛隊の任務は、米軍の世界戦略の後方支援という軍事目的にむかって数歩前進です。

○ 日本政府は核抑止力戦略を固持する米国に追従し、国連でも核廃絶の提起にいつも後ろ向きの姿

勢をとってきました。国内では戦後の歴史教育を東京裁判判決にそった自虐的・反日的な史観に立っているとは非難する「自由主義史観研究会」がもてはやされ、「新しい歴史教科書をつくる会」が活動をはじめました。

○ このような危険な動向を阻止するためにも 日本と京都の民主運動史を正しく語りつづ「燎原」の独自の役割を自覚せずにおれません。皆様の御支持と御援助をお願いして、新年のごあいさつに代えさせていただきます。

(岩井 記)

会や本誌については、左記へ
ご連絡ください。

〔事務局〕

〒六〇五 京都市東山区今熊野
南日吉町三九 奥村和郎
TEL FAX 〇七五・五六一・七四八五